

子どもの発達支援の基本 発達の危険因子・保護因子

公益社団法人 子どもの発達科学研究所
担当: 主席研究員 和久田 学



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

1

子どもの脳と発達



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

2

2

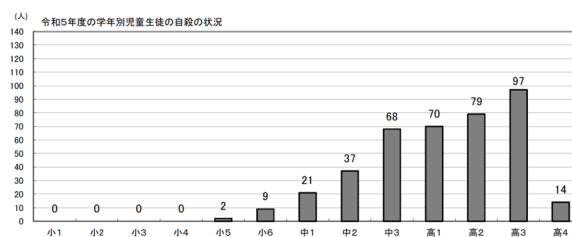
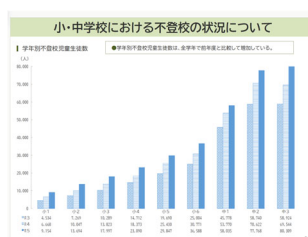
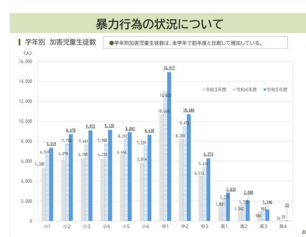
子どもの脳と発達

思春期の問題

低年齢化が指摘されているが、子どものメンタルヘルスの危機、行動上の問題など、発達リスクが高まるのは、思春期であることが分かっている。

なぜだと思いますか？

文部科学省・令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査



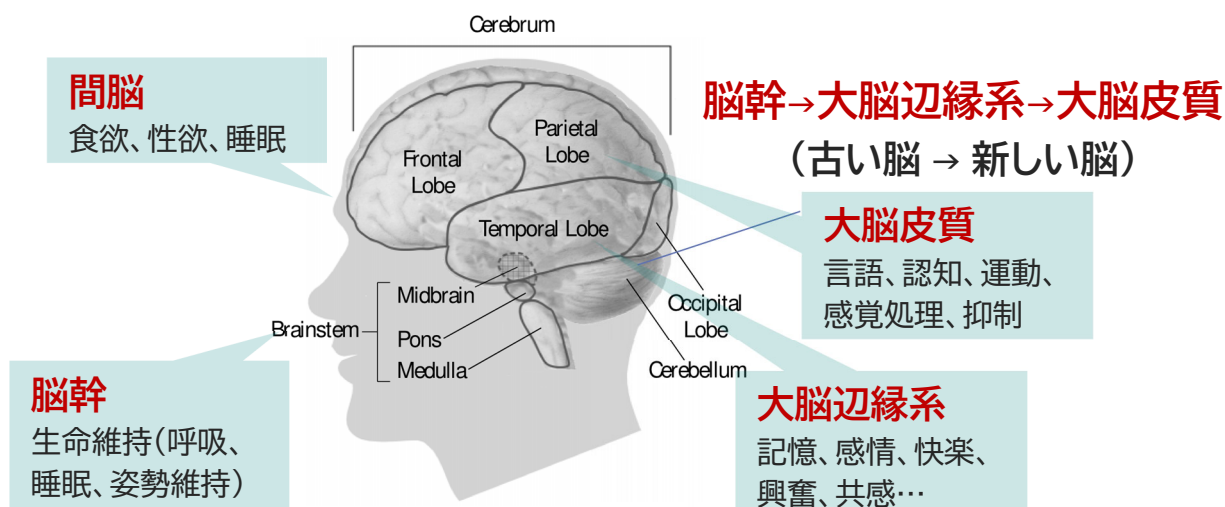
© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

3

3

子どもの脳と発達

脳の三重構造



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

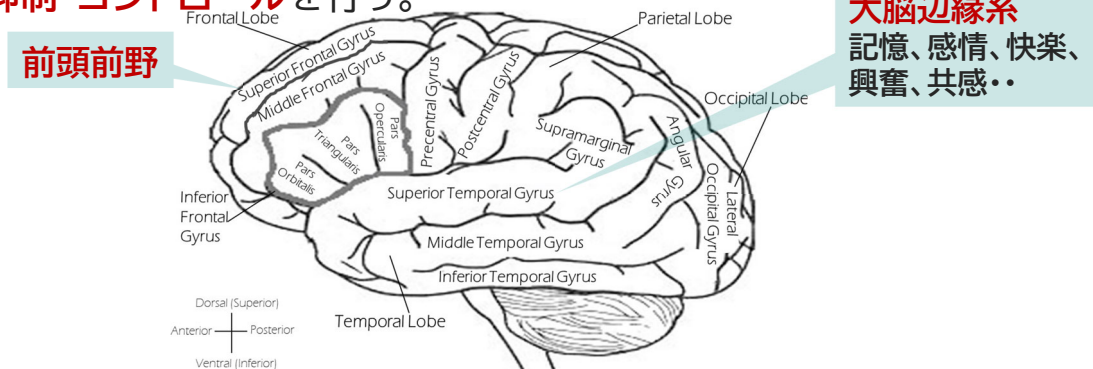
4

4

子どもの脳と発達

大切なこと

人が人らしくあるためには、**大脳皮質(特に前頭前野)**の発達が重要。大脳皮質(前頭前野)は、情動、欲望、感情、記憶、運動など、**全ての抑制・コントロール**を行う。



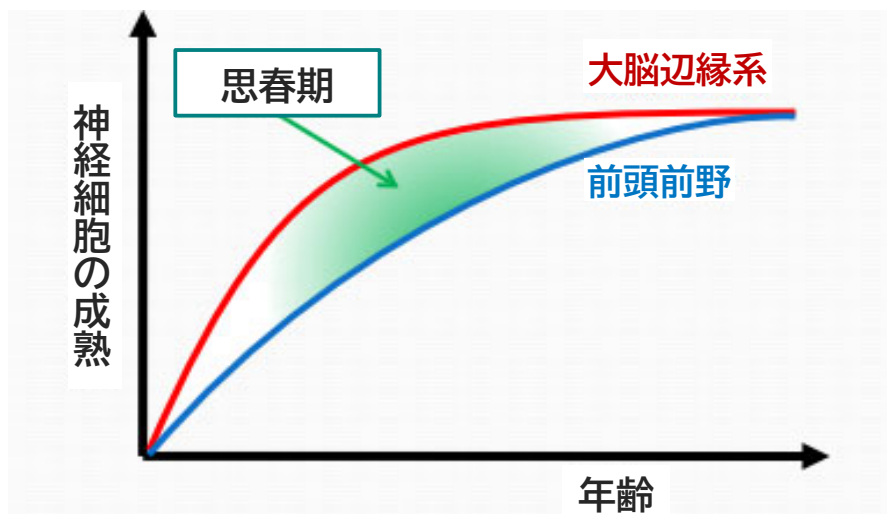
© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

5

5

子どもの脳と発達

脳の成熟度から見た思春期



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

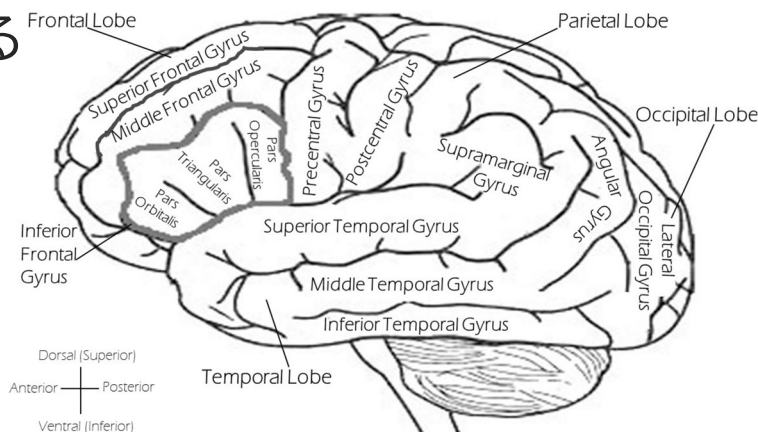
6

6

子どもの脳と発達

思春期の脳の特徴

大脳辺縁系と前頭前野のバランスが崩れている



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

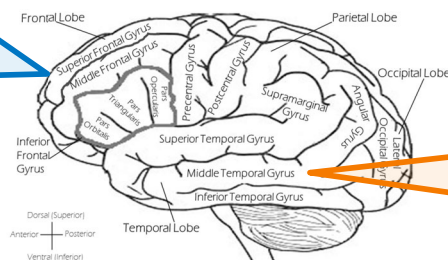
7

7

子どもの脳と発達

アクセルが効きやすくブレーキが利きにくい脳

ブレーキ
(抑制など)
前頭前野と
そのネットワーク



アクセル
(情動など)
大脳辺縁系



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

8

8

子どもの脳と発達

思春期の脳の特徴が、行動になって表れる

「興奮/情動回路」を刺激する環境

- ケンカ、冒険
- 学業、スポーツ
- 万引き、校則違反
- 恋愛
- アルコール、ドラッグ

思春期の脳にとってはどれも報酬になる可能性がある



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

9

9

子どもの脳と発達

思春期の前までにしておきたいこと

抑制脳を育てておくこと

つまり、十分なスキルの獲得

自分の大脳辺縁系をどう手懐けるのか？

→ 非認知スキル教育



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

10

10

発達における 危険因子と保護因子

11

発達における危険因子と保護因子

若年無業者(ニート)2.2%

	若年無業者数	総人口	割合
2013年	60万人	2,687万人	2.2%
2014年	56万人	2,687万人	2.1%
2015年	56万人	2,614万人	2.1%
2016年	56万人	2,590万人	2.2%
2017年	54万人	2,571万人	2.1%
2018年	53万人	2,551万人	2.1%
2019年	56万人	2,531万人	2.2%
2020年	69万人	2,516万人	2.7%
2021年	58万人	2,492万人	2.3%
2022年	57万人	2,456万人	2.3%
2023年	59万人	2,425万人	2.4%

労働力調査(基本集計)
2023年平均結果の概要
・総務省統計

12

発達における危険因子と保護因子

成人の問題は、急に始まらない。

つまり成人期の問題は、子どものときに既に種が蒔かれ、芽が出ている可能性が高い。

では、何が「芽」なのでしょう？

今までのデータでも、不登校・いじめなどが「芽」である可能性がわかっていますが、欧米のデータはさらに多くを語っています。



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

13

13

発達における危険因子と保護因子

問題は予測可能？

- 8歳から10歳で教師や仲間から問題行動があるとされた子どもは、10歳から13歳で補導されることが多い。(Farrington, 1986)
- 反社会的行動は、3歳の時の母親による評価での「行動コントロールの難しさ」と5歳の時の、親の評価による問題行動によって予測できる。(White et al. 1990)
- 幼児期の問題行動は中高生の麻薬、非行、破壊的行動、学校からのドロップアウトを予測する。(Pattersonら、1989)
- 小児期の問題行動は思春期以降に重大な影響を及ぼし、成人期になっても社会的情緒的問題を持つ。(Huffman, 2000)



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

14

14

発達における危険因子と保護因子

問題は予測可能？

- 1980年から2000年に28地区で行われた調査を総合して分析すると、不登校(理由のない欠席)は中学校の薬物使用を予測している。
特に中学2年生の不登校は、マリファナ使用リスクが、そうでない子どもの4.5倍になった。(Halforsら、2002)
- 北マイアミ海岸地区で、警察が不登校センターを開設し、登校時間に街にいる少年を補導するようにしたところ、実質的な犯罪が減少した。
例えば、車両強盗が22%減少し、住宅での強盗やいたずらが19%減少した。(Bergerら、2000)



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

15

15

発達における危険因子と保護因子

不就労や引きこもりは、 なぜ減らないのだろうか？

10年間、高止まりしているのは、
今の対策が実を結んでいないことを
意味しているかもしれない・・・。



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

16

16

発達における危険因子と保護因子

発達の危険因子

問題の外在化

暴言暴力、非行、家庭内暴力
触法行為

問題の内在化

不登校、引きこもり、うつ、
自殺、精神疾患



危険因子

【学校環境】

いじめ被害、間違った教育、体罰、就学指導の失敗、孤立...

【家庭環境】

偏った教育方針、虐待、DV、きょうだいの暴力、貧困...

【個人要因】

発達障害、知的発達の遅れ、気質、低出生体重、アレルギー...

【保護者・家族要因】

保護者の精神疾患、障害、低学歴、若さ、離婚、兄弟の多さ、貧困、外国人...



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

17

17

発達における危険因子と保護因子

発達の保護因子とは？

問題を減らしたり起きにくくしたりする因子を保護因子と
言うが、何が健全な発達を促す保護因子だろうか？

	危険因子	保護因子
個人要因	発達障害、知的発達の遅れ、気質、アレルギー疾患、低出生体重	IQの高さ、罪意識、コーピングスキル、社会性の高さ、行動のバリエーション(余暇活動)
家庭環境要因	保護者の精神疾患、障害、低学歴、若さ、離婚、兄弟の多さ、貧困、外国人、偏った教育方針、虐待、DV、兄弟の問題、孤立	母子関係の良さ(愛着)、安定した生活リズム、年収の高さ
学校環境要因	いじめ被害、間違った教育、体罰、就学指導の失敗、問題のある友人の存在、孤立	特別支援教育(質の高い教育) 教師や友人との良い関係、満足感のある活動、学校風土の良さ



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

18

18

発達における危険因子と保護因子

危険因子と保護因子

危険因子、保護因子は、研究によって明らかにされたもの。
(誰かの考えだと、偏見、差別になってしまう)
それは、集団レベルであれ、個人レベルであれ、
何らかの影響が期待できるということ。

【予防に使う】

危険因子のある児童生徒は、問題が起きていなくても配慮し、あらかじめの支援をしておく必要がある。
環境として、危険因子を減らす、保護因子を増やすは、問題のリスクを減らし、
子どもの成功を増やす可能性がある。

【個人支援に使う】

危険因子を減らす、弱める。保護因子を増やす、強める、ことを考える。特に保護因子への注目は重要。



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

19

19

20